第３章　自然環境の保全

第１節　自然環境の概況

本市は、北部の甘木山から東部は稲荷山（いなりやま）、上徳山（うわとくやま）、大間山（だいまやま）、三池山（みいけざん）、高取山（たかとりやま）等の標高 180m から 388mの低山地帯が連なり、隈川、堂面川、大牟田川、諏訪川の二級河川が、東部の低山地帯から西部の有明海へと流れこんでいます。臨海部には干潟が見られるほか、有明海上には、初島、三池島の人工島があります。また、市街地の中心部にある延命公園は、身近に親しめる貴重な自然とのふれあいの場となっています。

気候は温暖帯に区分され、自然植生は常緑広葉樹を主体とした照葉樹林帯に属します。また、市内各所の寺社や宅地の庭には、古くから市民に親しまれ、都市の良好な景観を形成している樹木等が見られます。これらは自然環境の保全上重要な価値があり、平成 27 年度の調査では、84 本の巨木（保存樹に指定してあるものの中で幹の周辺が３m以上の樹木等）が確認されています。

地質は、新生代古第三紀層の地層が重なって分布しており、石炭産業が繁栄した本市では、古第三紀層の七浦層からたくさんの石炭が採掘されました。古第三紀層の地層の成り立ちをじかに見ることのできる貴重な稲荷層（とうかそう）や米の山層の露頭があり、また動植物の化石が多く認められる勝立化石層などが存在しています。

第２節　貴重な動植物等

ここで紹介するのは、本市に生息する全国で個体数や種が減少し絶滅等が危惧されている貴重な動植物の一部です（この他にも多くの希少種が生息しています）。

○ニッポンバラタナゴ

コイ目コイ科。絶滅危惧Ⅰ類（環境省レッドデータブック）。全長５㎝、淡水二枚貝の中に卵を産みつける。水草の多い所、砂泥底や泥底を好み、池沼などに生息している。

○センベイアワモチ

異鰓目ドロアワモチ科。絶滅危惧Ⅰ類（環境省レッドデータブック）。全長４㎝、汽水域のヨシ原に近い泥干潟や転石の下などにすむ。生息環境である河川等の汽水域の開発による消失などで固体数が激減している。

○ベニアジサシ

チドリ目カモメ科。絶滅危惧Ⅱ類（環境省レッドデータブック）。夏鳥としてオーストラリアから奄美・沖縄諸島に渡来・繁殖し鹿児島県の馬毛島が北限とされていたが、94 年に三池島で発見され、三池島が繁殖地の北限であることが確認された。

第３節　自然環境調査及び保全

本市には、豊かな自然が多く残されているものの、宅地開発や生活排水の流入等の人間活動によって自然環境の変化や生物種の喪失が危惧されています。また、国外や国内の他地域から意図的・非意図的に外来種が導入されることにより、在来種に様々な影響が生じています。

本市では、自然環境の保全を重要な課題の一つと位置づけ、自然環境に関する調査を実施し、自然環境保全の基礎資料としています。

１　自然環境調査

本市では、平成 11、12 年度に全市的な自然環境調査を行い、報告書を出しています。

その報告書以降は、本市の自然環境データの蓄積、自然環境変化のモニタリングとして、平成 15 年度から毎年度、対象地域を決定し、グリーンセンサス（定期的な自然環境調査）を行っています。

これまでに実施した調査地域は**表 3-3-1** のとおりです。調査結果は、自然環境保全の基礎資料とするとともに市民の啓発に資すため、報告書にまとめて、市の情報公開センターで公表するとともに市のホームページでも公開しています。

自然環境調査報告書

表 3-3-1　調査地域

年度	調 査 地 域
15	堂面川水系白銀川
16	三池島
17	ホタル生息地、岬地区塩性湿地、旧三池海水浴場
18	三池山
19	延命公園（片平山）
20	甘木山
21	三塚山、高取山
22	大間山
23	櫟野地区、上内地区
24･25	諏訪川河口区域、岬町塩性湿地区域
26	四ケ地区
27	稲荷山地区
28	黒崎公園・隈川河口域地区
29-30	三池山

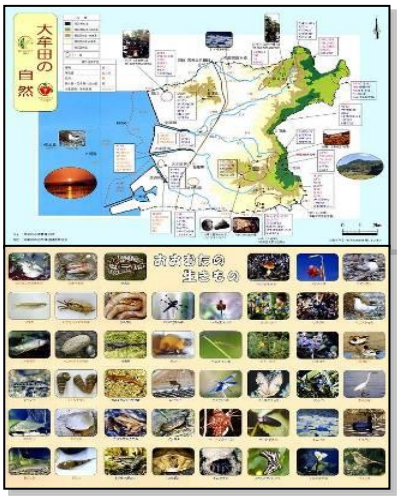
２　自然環境の保全

（１）　開発行為に対する意見等

都市計画法に基づく開発行為について、開発事業が自然環境に与える影響を最小化するため、開発を行う者に対して、自然環境の保全を図るよう意見書による指導を行っています。

（２）　自然観察用マップ「大牟田の自然」の配布

本市は、山、川、海と自然に恵まれた地域で、様々な生き物が生息しています。そこで、市民に自然環境に目を向けてもらうため、どこにどんな生き物が生息しているかを記したマップを希望者に配布しています。



大牟田の自然

（３）　その他の保全施策

ア　鳥獣保護区

野生鳥獣の保護繁殖を図ることを目的として、本市においては、次の２区域を県が鳥獣保護区として指定し、狩猟による鳥獣の捕獲を禁止しています（**表 3-3-2**）。

表 3-3-2　鳥獣保護区の内容

鳥獣保護区名称	面積	期間	鳥獣生息状況
甘木山 鳥獣保護区	555ha	平成 24 年 11 月 15 日から 平成 34 年 11 月 14 日まで	（鳥類）カイツブリ、ゴイサギ、メジロ、コゲラ等 約 34 種 （獣類）ノウサギ、タヌキ、イノシシ等
三塚山 鳥獣保護区	585ha	平成 23 年 11 月 15 日から 平成 33 年 11 月 14 日まで	（鳥類）カイツブリ、ツグミ、メジロ、ダイサギ等約 27 種 （獣類）ノウサギ、タヌキ、イノシシ等

イ　野生鳥獣保護モデル校

県では野生鳥獣の保護活動等に積極的に取り組んでいる小・中学校を対象に「野生鳥獣保護モデル校」の指定をしています。本市では大牟田中央小学校が指定校となっています。（平成 29～33 年度）

ウ　「緑の基本計画」に基づく施策の展開

緑は、良好な景観を形成し、都市の気象緩和や生物の生息・生育空間の保全に資するとともに、身近に親しめる自然とのふれあいの場など多様な機能を有しています。

本市では、平成 12 年度に緑が持つ機能の重要さを認識し、緑を市民共有の財産として守り育んでいくために、緑を守る、緑をつくる、緑と共に生きるを基本方針とする「緑の基本計画」を策定しました。

平成 29 年度は、この実施計画に掲げる緑化施策として、緑化啓発イベントである「よみがえる水と緑の環境フェア」を開催し緑化意識の高揚を図りました。

また、緑豊かで快適な都市環境を確保するために「大牟田市緑化の推進及び樹木等の保存に関する条例」に基づき、これまでに累計 115 本（平成 29 年度末現在）の保存樹の指定を行うとともに「まちの美緑花（みりょくか）ボランティア制度」などを活用し、市民との協働による都市景観の向上に努めました。